

UVインキ

## UV KS シリーズ

“UV KS”シリーズは、カップ印刷用に開発したUVインキです。

### ■ 特徴

- ▶ プラスチックカップ印刷に実績があり、ヨーグルト容器に利用されています。
- ▶ 乾燥性が良く、特に未処理発泡スチロールに接着性が良く、耐スクラッチ性・耐裏付き性・耐摩擦性等の耐性が非常に良好で、高速印刷適性に優れています。
- ▶ 機上安定性が良好でインキの濃度も高いため、ベタのつぶれが良く文字もシャープに印刷することができます。
- ▶ 基準色として、以下を揃えております。ご要望により各種特練インキのご依頼もお受けいたします。

### ■ 基準色および耐性

品名	耐光性		耐熱性	耐石けん性	耐溶剤性
	濃色	淡色			
UV KS 黄	4	3	4	5	5
UV KS 紅	4~5*	3*	4	2	4
UV KS 藍	8	7	5	5	5
UV KS 墨	7~8	7	5	5	5
UV KS メジウム	8	—	5	5	5
UV KS 白	8	7	5	5	5
UV KS 金赤	3*	2*	4	1	3
UV KS グリーン	8	7~8	5	5	5
UV KS 耐性 紫	7~8	7	5	5	5

評価：耐光性 8(優)⇔1(劣)、その他：5(優)⇔1(劣)

\* 水に濡れた状態では、耐光性が極端に悪くなります。

#### <試験方法>

耐光性…印刷物をフェードメーターにて照射試験し、暴露時間と変褪色の程度により強度を8段階に分級。

希釈しない濃色とメジウムで5倍に希釈した淡色を試験する。

耐熱性…印刷物を150℃の熱風循環式乾燥機中で10分間加熱し、変褪色の程度により強度を5段階に分級。

耐石けん性…印刷物を10%の石けんゲルに20~25℃で1時間付着し、変褪色の程度および石けんゲルへのブリードの程度により強度を5段階に分級。

耐溶剤性…印刷物をトルエンとアセトンの1:1混合液に20~25℃で24時間浸し、変褪色および混合液へのブリードの程度により強度を5段階に分級。

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認ください。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。

## ■ 使用上の注意

- ▶ 原反の種類によっては、接着しない場合がありますので確認をお願いいたします。
- ▶ 一般の接着試験では異常が認められない場合でも、水介在時インキの接着力が極端に低下し、爪などによってスクラッチ傷がつきやすくインキが簡単に剥がれることがありますので必ずご確認願います。特に表面処理を施す際にはご注意ください。
- ▶ 最終製品における、諸条件の適応性をご確認願います。水付着時のインキ接着力の低下、耐冷凍性、耐レトルト性、耐内容物性等にご配慮願います。
- ▶ インキ盛り過ぎやランプの劣化により、硬化不良・密着不良が発生する可能性がありますので、ご注意ください。
- ▶ 助剤・洗浄剤・版材については、UVインキ用のものをご使用下さい。
- ▶ 火気に注意し、作業場は十分に換気し、紫外線や直射日光を避けて取り扱って下さい。吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れない様に適切な保護具を着用ください。衣類等に付着した場合は、直ちにその汚れを落とし着替えて、汚れ部分が長時間接触することを避けてください。取り扱い後は、手洗いとうがいを十分に行ってください。
- ▶ 目に入った場合は、直ちに多量の水で15分以上洗い流し、眼科医の手当を受けて下さい。皮膚に付着した際は、汚染衣服や靴等の汚れを落とした後、付着部または接触部を石鹼水で洗浄し、多量の水で洗い流して下さい。皮膚に炎症やかゆみを生じた場合は、直ちに医師の手当を受けてください。
- ▶ ご使用に際しては、安全データシート(SDS)を参照願います。



印刷インキ工業会

2022/1/13 No.W-3

- ▶ 記載のデータは、当社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するかを必ずご確認願います。なお、本文中の用途はいかなる特許に抵触しないことを保証するものではありません。
- ▶ 製品改良のため、予告なく内容を変更することがあります。
- ▶ 製品使用の際は、必ず事前に安全データシート(SDS)をご一読願います。